

この上もないことである。

#### 4. 龍禪子を語る

##### (1) 入木道秘伝の発得

龍禪子は師匠（北泉師）から入木道の技法に従って「横一」を教授された。すると龍禪子の身がかすかにふるえおののき、「わかった。」と叫んだという。北泉師は「何がわかったのか」と聞くと「鎮火水龍の秘伝が分かりました。」とこたえたので「ばかなことをいう。一生かかってもわからぬ秘伝が突如としてやってきたお前にわかるはずはない。」といわれた龍禪子は争わないで叡山にかえり徹宵してくふうをかさねたところ、うろこみな動き雨をよび雷を起こす底の鎮火水龍ができあがったという。

さっそく北泉師に郵送したところ「お前はわが秘法を窃んだのであろう。越法の罪許し難し。」というお叱りを受けた。それは昔も今もかってないことだから信じられないことだったからである。数か月後北泉師は再び書をよせて龍禪子のくふう修熟したのを見極めて入木道第46世の正統をつがしたというのである。

(受業門入)

##### (2) 霊 雨

「なにごとのおわしますかは知らねどもかたじけなさにみだこぼるる」これが真筆道に対する門人の所感であった。深遠宏大な真筆道本源、その片鱗の体得さえできていない初心者でも、龍禪子の教えに心気一転して書に徹して人らしき人とする心の経過を思いつめていたのである。

昭和14年12月10日その年最後の教師会にて「白雲」「慶雲」「禪雲」と龍禪子のお筆が走り終った瞬間、はい然として時雨が過ぎた。神格に透徹された師の教授を受けられる身の幸をしみじみ思い全くの偶然とはいえ、帰路には雨が晴れて星がまたたいているのが不思議にさえ思えたのである。(田中芳子)

##### (3) 紙田と心田

水は魚を浮べ、魚は水によりて生きている。その水があることを忘れて、水魚一体となる境地が書道三昧である。龍禪子が三昧に入った刹那に紙をのべるのが間に合わないくらいに縦横無じん奔放自在に筆が走り、紙がなければ敷物にかき床にかき、果は虚空にかき、さながら筆の止まるところを知らない状態になったという。それゆえにちょっとみると神霊が指先にこり移っているようなありさまであった。書体を学ぶならともかく、書道を学ばんと欲するものは、この境地に到達するようつとめなければなるまい。ことばをかえていえば、書道は紙田を耕すとともに心田を耕すことを忘れてはならないというのである。(会報4号)

##### (4) 心身の練磨

龍禪子について、私の感謝しているのは、まず形をととのえ心を修めて後、筆をとることを教えていただ

いたことである。紙にむかって筆をとれば、いつでもりっぱに文字が書けるというものではない。心身の落ちつかない時は、何枚かいてもものにならない。心身の練磨が第一義である。

よっぱらって字を書く人がいる。酔墨とか酔書とかいうのがそれである。酒を使ってかくと時には実力以上の力を発揮することができるためであろうか。殊に大きな字をかく時には一パイひっかけて筆をとる人もいたのであろう。つまり心身の安定していないためだと思う。真筆道によれば何も酒をのまなくてもよい。じゅう分力の入った字がかけるのである。

先生の「龍虎」の二大字は酒を飲まないでかいている。酒をのんでかくのは字におびえ字にのまれるから、それをごまかすためではなからうか。平生心身の練磨をしていれば字にのまれ、字をおそれたりするはずはない。先生は大きくうなずいておられた。

(岩住良治、元東大教授)

##### (5) 書道は中国に亡びて日本に生く

昭和16年前後の学書家は、書をもって心部を修めようとするのではなく、書をもって生計をたてようというのである。だから文検(中等教員検定)に通るか通らないかが問題である。そのため、書品も、書致も、書趣も眼中になく、龍禪子の書はじょうずなかもわからない。甚だしいのは、笑って相手にしないという凡そ鑑賞力が低く最下の人が笑うことは、道の最高たる所以と見ればこれまた致し方ないことともいえようがなさないことである。

中国の法帖を学び書に精通しているが如き過信がわざわざしているのではなからうか。仏教は印度に亡びて日本に生き、儒教は中国に亡びて日本に生き、書道また中国に亡びて日本に生く。この判然たる事実を看取し、わが門に來り学びませんか。(受業門入)

人はまず書に着手する前に、道に着眼しなければなるまい。けだし、いまにも通じる名言ともいえよう。

※ 龍禪子を語るこの種の書話は、私の目を通したもので、1忘我の境 2下駄での一字 3書は射と同じ 4冷暖自知 5自嘲自奮 6入木屋欲字伝 7百家休則 8三立三要、筆禪一致の妙境、黄葉集などまだまだ語りたい内容は豊富である。

#### 5. 教授清規(教授科目)

##### (1) 真筆道本源

威儀用筆、48則 書論百則 秘中甚秘 秘決

##### (2) 教授書体

楷、行、草、八分、篆、隸、飛白、仮名

(葉柳体、変体、万葉体、遊系体、鶏尾体、雲姿体、金蓮体等) 古歌書式、明治天皇御製、千姿千態書式)

##### (3) 伝授書法

蔡邕 張芝 王羲之 虞世南 歐陽詢 褚遂良 張